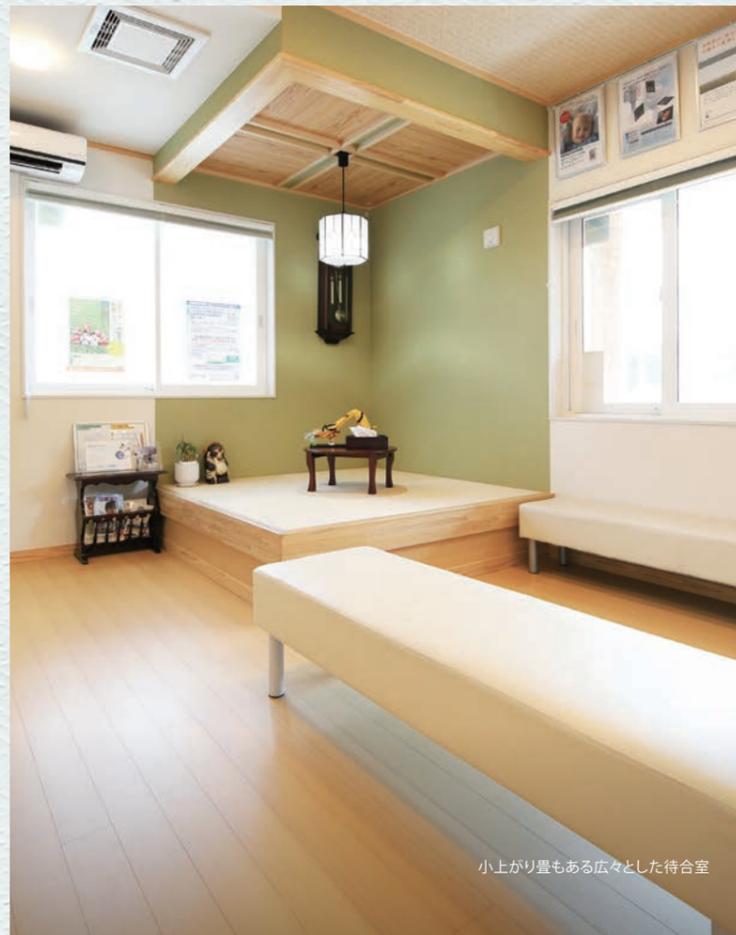




建物全体とマッチする堂々とした看板を掲げた玄関



小上がり畳もある広々とした待合室

東日本大震災後の時間を 地域と歩み 住民の暮らしに 寄り添う歯科医院

岩手県沿岸部の山田町にある「内館歯科医院」は、東日本大震災を経て、2年前に歯科医院を移転新築した。その歩みとこれからについて伺ってみた。

内館歯科医院 院長 内館 伯夫 先生



真っ白な和風の外観を持つ 歯科医院を震災9年後に再建

「内館歯科医院」は、岩手県の三陸沖に面した山田町の新しく造成された高台にある。2011年3月11日に発生した東日本大震災のあと、山を崩して作られた住宅地の一角だ。

神社や姫路城を彷彿とさせるような、ゆるやかにカーブした屋根の真っ白な平屋建ては、遠くからもよく目立つ。入り口に建つのは6本の大柱。建物のなかにも2本の大柱があり、それらの柱は、山田町を守る山田八幡宮の「八」の字にちなんで建てられた。

和風の建物にした理由を内館伯夫院長はこう話す。「和風の造りにこだわったのは、私が日本史を学ぶのが好きなことと、神社めぐりが趣味なことからです。壁や屋根を真っ白にしたのは、やはり歯のイメージから。健康的な白い歯を印象づけたいと思いました」

院内も和風の造りだ。待合室に子どもが遊んだり、お年寄りが腰掛けられる小上がり畳のスペースがあったり、扉が障子や襖風になっていたり、通路の仕切りには大きなれんがが掛かっていたりしている。さらに珍しいのが診療室の壁面にまつられた立派な神棚だ。

「山田町は神社とのつながりが深い地域です。私も長年、山田八幡宮のお祭りで神輿の担ぎ手を務めていま

すし、今年1月からは関口神社の総代を拝命しました。歯科医院の建物が和風というのは珍しいですが、海が近く、緑も豊かな山田町の景観に溶け込んでいますし、いいアイデアだったと思っています」

「内館歯科医院」の敷地内の庭には、しだれ桜やつつじ、さつき、梅、桃の木があり、季節で変わる植物の色合いが白い建物によく映える。そんな建物や内装を見ると、「穏やかな暮らしが守られ、これからも長く続くように」と祈る内館院長の気持ちが伝わってくるようだ。

焦らずに診療を続けながら 歯科医院の再建を待つ

「内館歯科医院」が開業したのは、2008年。町の中心部を通る国道沿いに自宅兼診療所としてスタートした。

しかし、東日本大震災で被災。山田湾に押し寄せた10.9mもの大津波に襲われ、建物が全壊流出した。山田町では、津波とその後起きた火災により、亡くなったり、行方不明になったのは796人、3369棟の建物が倒壊している。

この日、内館院長は午後から介護老人保健施設へ訪問診療に出かけていた。地震が起きたのは、歯科医院に戻り、休憩を取っていたとき。患者はいなかったが、



障子風の入り口を設けた半個室



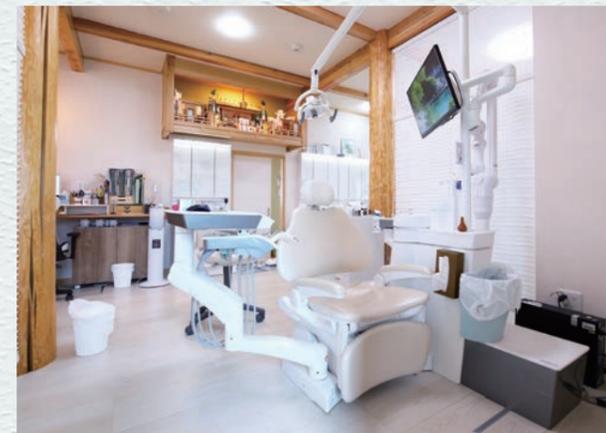
チェアの後ろ側は診療側の専用通路を設け、スタッフ動線を確保



待合室から患者用通路の境に掲げられたのれん



患者は専用の通路から各診療室に入る



チェアの周囲は広いスペースを確保し、奥には神棚がある



診療室の壁に祀られている神棚

地震の揺れで院内には多数の物が散乱した。「その頃、地震と小さな津波が何度か続いていましたが、さすがに経験したことのない揺れでした。聞いたことのないサイレンが町内放送で流れたこともよく覚えています。まずは家が遠いスタッフを帰しました。その後、道路が混んできたこともあり、残りのスタッフを高台にあった私の実家に避難させ、少し遅れて私も移動しました」

そして、高台から海の方を眺めていたときだった。町を大津波が襲った。内館院長は大切にしていた歯科医院と自宅が濁流に飲み込まれていくのを見ていることしかできなかった。

「津波のあとに起きた火災もどんだん山のほうに迫ってきました。このあたりはプロパンガスを使っているので、

家に火がつくとボンと爆発するんです。家族を海からさらに遠い高校に避難させ、私は実家を守るために残ったのですが、一晩中、車のなかから町が燃えるのを見ながら過ごしました」

内館院長は避難所となった高校で、地域住民の医療ケアに当たった。「1年は歯科医院を再開できないだろう」と考えていた。しかし、震災から3カ月後、実家前の駐車場の敷地を借り、プレハブの仮設診療所で「内館歯科医院」を再開させた。

「津波の被害で町の多くの機能が失われてしまい、保険医療機関の再開が急務でした。チェアや医療用品もすぐに用意できると言ってくれたディーラーさんの後押しもあり、『じゃあ、やりましょう』ということになりました」

2台のユニットから始まった仮診療所には、数多くの患者が訪れた。むし歯や歯周病の治療だけでなく、津波で入れ歯をなくした高齢の患者も多かった。

1、2年経った頃、仮設診療所にプレハブを追加して、ユニットを1台増やした。待合室がないため、患者に車のなかで待ってもらうこともあった。

「町や歯科医院が被災したことはショックでしたが、感情的になると、仕事やプライベートが立ちゆかなくなると直感していました。あえて冷静を保ち、日々を淡々と過ごすようにしていました」

新たな歯科医院の場所は、震災から2年ほど経った頃に決まったが、道路を通し、山を崩しての造成が必要だったため、着工までには、それから5年ほどの月日

がかかった。その間も内館院長は焦らず、地域の復興の足並みと時間の流れに身を委ねるように日々を過ごした。山田町では震災後、5軒あった歯科医院のうち、「内館歯科医院」を含め、3軒が再開している。

「震災への思いや考えは人によって違うと思いますが、私の場合は、考えないことで乗り切っている気がします。真正面から向き合うとつらくなりますし、震災の日に時間が戻ってしまう。『震災を忘れない』とか『経験を活かす』と言うのは、当事者じゃないと思うんです。私たちは身に染みてわかっているから口に出さないし、黙って行動をする。私たちの周囲にいる人たちが、震災を忘れずにいてくれたり、災害を繰り返さないために行動してくれることが、励ましになり、支えになるのではないかと思います」



診療側の通路に安心感を与える2本の大柱がある



CTを備えたレントゲン室

子どもの歯磨き環境の回復にも力を入れる

現在の「内館歯科医院」はユニットが4台。1日30人ほどの患者が治療を受けている。高齢者が多い地域のため、むし歯の治療や義歯の作製と修理・調整が多い。

じつは震災後、被災地で問題になったのが、子どものむし歯が増えたことだった。避難生活が続き、食生活や生活時間が乱れたことが、歯磨きの習慣に悪影響を及ぼしていた。「岩手県のなかでも山田町は、以前から子どもたちのむし歯率が高い地域だったのですが、震災後、ワースト1、2を争うくらいになってしまいました。そこで、これ以上の悪化を防がなければということが始まったのが、フッ化物洗口です」

2013年に岩手県が県民の口腔衛生を向上させるため、「岩手県口腔の健康作り推進条例」を制定したことも、内館院長たちの活動を後押しした。

「とくにむし歯の多い地域の幼稚園と保育園、保育所、児童館に通う子どもたちを対象に、それらの施設と地区歯科医師会が協力し、週1回、フッ化物洗口を行っています。新型コロナウイルスが流行する前までは、歯磨きボランティアも行っていました。歯科医師と歯科衛生士が週1回、歯磨きボランティアとして出向き、ブラッシングをしたり、フロスをかけてきれいにするという取り組みです。歯磨きボランティアは、歯科医師や歯科衛生士と接する機会ができることで、子どもたちの歯科医院への恐怖心をやわらげることもできますし、とてもいい取り組みなので、新型コロナが落ち着いたら、再開したいと考えています」

子育て中でも働きやすく地域を支える歯科医院に

2020年に新たなスタートを切った「内館歯科医院」は、スタッフの働きやすさを考え、岩手県が設けている「いわて子育てにやさしい企業等」の認証を取得した。これは、雇用する労働者数が100人以下の中小企業を対象にした認証制度だ。仕事と子育ての両立支援を行い、男女が共に働きやすい職場環境づくりに取り組む企業等が認証を受けられる。

県内で認証を受けているのは、一般企業が多く、「内館歯科医院」のような医療機関は珍しい。

現在、「内館歯科医院」のスタッフは、歯科衛生士が1名、歯科助手が2名、歯科助手の資格取得を目指す2名の計5名。歯科助手の1人は育休を経て、9月半ばに復職した。「内館歯科医院」は、子どもの看護休暇を1時間単位で取得できることを新たな取組内容に加え、「いわて子育てにやさしい企業等」の認証を受けた。

「私の歯科医院で働くスタッフたちは、年代的に子育ての真っ最中です。産休・育休制度の整備はもちろんですが、子どもの急な体調不良や通院、保育施設からの呼び出しと、何かしら家庭の用事で仕事を抜けざるを得ないことが出てきます。でも、スタッフからすると、診療時間内の外出や急な休暇取得は言いづらいものです。そうした遠慮をせずに、言いやすい雰囲気を作りたいと思い、認証を取得しました」

医院の業務規則だけでなく、岩手県による公的制度を利用し、明文化することで、スタッフたちはより申請しやすくなる。また、認証を取得していることを院内に貼り出すこ

開業から仮診療所を経ての道のり

2008年、「内館歯科医院」は、山田町の中心地に自宅兼の診療所としてオープン。訪問診療も手がけ、頼れる歯科医院として住民に親しまれていた。

しかし、東日本大震災で被災。土台を残して一切を大津波に奪われてしまった。それから3カ月後にプレハブの仮診療所で診療を再開。その後、もう1棟を増設した。

そして2020年、現在地に移転新築。真っ白な和風の建物で新たなスタートを切った。



2008年に開業時の「内館歯科医院」



被災したあとの診療所



診療を再開した仮診療所

とで、周囲からの歯科医院への信頼感も高まる。

「取得後はスタッフが今まで以上に明るく、一生懸命、仕事に取り組んでくれるようになりました。患者さんへの対応や院内の清掃、スタッフ同士や院長とのコミュニケーションも向上したと感じています。私よりもスタッフが患者さんや地域の人たちにほめられる歯科医院であって欲しいと思っています」

内館院長は歯科医師を志したときから、山田町での開業を決めていた。歯学部卒業後、義歯専門の第一補綴科の先生に師事したのも、高齢者が多い山田町の地域性を考えてのことだ。勤務医の頃に山田町を離れた時期もあったが、故郷への思いは強い。震災前から訪問診療を続けることや中学校のバスケットボール部で18年間、コーチを務めたことから、地域とのつながりの強さが伝わってくる。

日々、診療にあたりながら、内館院長は「こんなことで患者さんに喜んでもらえるのか」と驚くこともあるそうだ。歯科医師からすれば当たり前の前術でも、患者からすれば、「痛くなかった」「噛めるようになった」という素朴な喜びが生活の向上につながる。その様子を目にする、「歯科医師になってよかった」とあらためて感じるという。

「これからも自分から積極的に働きかけてリードしていくというよりも、ニーズにしっかりと応え、支えることで、地域の口腔衛生が向上していけばいいと考えています。3Dパノラマレントゲンの設置も、将来的に矯正の需要に応える必要があるだろうと見越しての導入でした。歯で困っている方がまだまだたくさんいらっしゃるの、自分の知識と技術を提供し、患者さんに喜んでもらえる誠実な治療を続けていきたいと思っています」



内館伯夫院長(前列中央)とスタッフのみなさん

PROFILE

内館 伯夫 先生

- 2004年 岩手医科大学歯学部卒業。宮城県と岩手県の歯科医院に勤務
- 2008年11月 内館歯科医院開業
- 2011年3月 東日本大震災の津波で被災。6月、仮設診療所で診療を開始
- 2020年3月 現在地に新築移転開業

内館歯科医院

住所：〒028-1352 岩手県下閉伊郡山田町飯岡2-1-60
TEL:0193-82-4618 FAX:0193-77-4619 HP:https://www.uchidate-dc.com/